



# 磐田南 定時制だより 第2号

令和6年3月22日発行

## 1 校長より

「伝えておきたい大事な話」 野村 賢一

3学期の始業式で、私のマル秘情報を2つ、皆さんにお伝えした。1日10キロ走っていること、そして、無類の甘いもの好きであること、である。

前者については、走る代わりに2,000メートル泳ぐ日もあるので、「毎日」とは言えない。年齢のせいで、使う筋肉を変えないと体が持たないのだ。

運動しない日も、もちろんある。通っているジムの休館日と雨天とが重なってしまい、無理に外を走るとずぶ濡れになるとか、帰宅時間が余りに遅くて翌日に影響しそう、といった場合は自重している。

後者については、始業式、入学式でチョコケーキの話をしたことで、ある程度はばれていただろうが、実態は遥かにすさまじい。お酒も飲まないし、タバコも吸わないので、浮いた分のお金をつぎ込み、洋の東西は問わずに食べ漁っている。

新作のコンビニスイーツは必ず試し、ピュッフェではデザートコーナーに突進。地元の名店はほぼ制覇済みで、イトインがあれば男1人で平気で席につき、最低でも2品をオーダー。せっかくの甘みが薄まるのでドリンクはなし。年齢、性別、妙な注文のせいで、すぐ顔を覚えられてしまう。

この2つは、前者が手段・後者は目的、という密接な関係にある。過剰摂取した糖분을徹底的に消費することで、「好きなものを好きなだけ食べたいけど生活習慣病は嫌」とのワガママを貫き通そうとしているのだ。

私の目論見（もくろみ）は、今のところ成功している。夕食後に2時間近く体を動かすのがルーティーンとなった。健康診断の結果も至って良好である。これがダイエット目的なら、とっくに挫折していただろう。

人間、本当にやりたいことがあるならば、結構な無茶が利く。覚えておいて損はない、と思う。

## 2 教頭より

「学ぶということ」 仲村 修也

国語科の教員として採用され20数年が経ちますが、これまで授業において、現代の小説から万葉集を代表とする古代の文学まで幅広い教材を扱いながら、読む力や話す力の向上、思考力を養うことなどに力を入れてきました。そのような授業を行っているうちに日本語という言語の面白さが身に染みて感じるようになってきました。日本語は、平安時代にはひらがな、漢字、カタカナで構成され、その後西洋の文化が流入することによりローマ字の表記や各国の言葉も日本語の一部として取り入れられるようになり、多様な表記を用いた表現をする言語となりました。私はその中でも漢字は特に魅力があると思えるようになりました。では、その中で1つ例を挙げて漢字の面白さについて話します。

私は国語の授業に少しでも興味をもってもらおうという単純な発想で「愛」と「恋」の違いについて漢字から読み解く授業を行ったことがあります。ちなみにみなさんは「愛」と「恋」の違いを漢字から考えたことがありますか。この問いを考えるにあたり各漢字の「心」がどの位置にあるかで判断することがよくあります。そのため「恋」は下心があるもので、「愛」は「心」が真ん中にあるので、真心があるのが「愛」と捉えられることが多いです。私はこの捉え方はもちろん面白いと思いますが、国語の教員としてもう少し見方があるのではないかと考え、「愛」は「心」と「受」という漢字で成り立っているとまず捉えました。そうすると、真心を受け取ることが愛ということになります。でも、相手からもらうことが「愛」というのはしっかりこなかったため、色々な辞書（中国の辞書も含む）や評論文を読んでいるうちにある作家の文章に行き当たりました。白川静さんの『常用字解』です。そこから、もともと「受」という漢字は手渡して相手に渡すという意味があったことが分かりました。その時、私は「愛」というのは、相手に自分の真心を渡すことなのかと、妙に納得した

覚えがあります。もちろんこれは私の持論でしかありません。実際「愛」という言葉の語源は全く違います（これはネット等ですぐに調べられますので自分で調べてみてください）。ただ、時間をかけて自分なりに色々調べてみて自分なりの答えを見つけ出したものには愛着が生まれ、その考え方が自然と自分の身に染みてきます。そのためこの漢字に愛着が湧くとともに、それ以外の漢字についても調べてみるようになりました。そうするとこのように漢字には語源があり、さらに色々な捉え方がされていることが分かり、漢字の奥深さを知ることとなりました。

今回は漢字を例に挙げましたが、授業を行っていく中で、自分なりの捉え方をした教材はまだあります。私は学ぶということはこういうことだと思っています。すぐに答えが出るような問ばかり考えたり、答えが分かりやすいようにしてもらったりすることではなく、どんなに時間がかかっても自分なりに答えを導き出すことが大切だと考えています。どんなことにもあきらめなくて、自分なりに答えを探す努力をして、自分らしさを身につけることが学ぶことだと私は考えるようになりました。

みなさんにはまだまだ多くの学ぶ時間があります。来年度はより自分らしさを見つけるためにも、すべての時間が学びの時間だと思い、学ぶことを楽しみましょう。

### 3 各学年の先生より

#### 「和」 1年部 鈴木 啓介

新しい校舎に引っ越して、1年が経とうとしています。職員室や教室がどこにあるのか分からず、戸惑っていた日々が、ついこの間のようで、月日の経つ速さには驚かされます。

さて、皆さんも、今年度の一年や小・中学校を振り返ってみると、当時は長く感じた時間も今では短く感じるのではないのでしょうか。高校生活も長く感じる時もあると思いますが、振り返るとあっという間です。短くて長い高校生活を充実させる2つの方法を紹介します。

1つ目は、これまで自分がどれだけ成長できたか振り返ってみることで。例えば、

- ・友人と過ごした時間＝他者を思いやる気持ちやコミュニケーション能力を向上させた。
- ・ゲームに夢中になった＝集中力を培い、時間管理の重要性を理解した。絶対に課金しない忍耐力を得た。

このように、皆さんの日常には、成長や学びが溢れています。これを自覚することはとても大切です。ぜひ考えてみてください。

2つ目は、これからの時間をどのように過ごしたいか考えてみることで。何も考えないよりも意図をもって取り組むほうが得られる経験値は多くなります。これからより充実した時間を過ごせると思います。人生は足し算。後悔や焦りよりも、振り返りながらそれぞれの瞬間を足し算し、成長していくことが大切です。これからもより大きな数を足し算できるよう、時間を大切に過ごしてください。

#### 「あと1年」 2年部 落合 忍

定年延長の移行期ということで、来年あと1年だけこの学校に残ることができる。それと同時にいつ教職を辞めるか？辞めたあとどうする？ということを考える必要に迫られてきた。

TV番組「オモウマイ店」に「エキサイトスーパー田中」という愛媛県のスーパーが登場する。金儲けは全く考えず、刺激を求めることを第一に考え、採算度外視の経営をしている。店長は「(儲からない事が損なのではなく)本当の損とは自分がやりたいことがやれないこと」と言っている。この店の経営方法をすごいとは思いますが、自分だったら絶対にやらない。しかし店長の言葉には100%同感で、私自身もこれまで“おもしろい”と思えることを第一に考え、あまり他人に迷惑をかけることもないだろうと思える範囲でいろんなことをやってきた。(家族には迷惑をかけてきたに違いないが・・・)

20・30・40・50代それぞれの年代で4つの定時制高校を経験し、教員生活の半分以上を定時制で勤務した教員は他にはあまりいないだろうと思う。こんな人生を歩んだ理由はいくつかあるが、一番の理由は“定時制は面白いから”と迷うことなく答える。“なぜ面白いのか？”を問われたら

“①生徒たちに伸びしろがたくさんあって、日々の変化がよく見えるから面白い。”

“②いつ何が起こるか分からないという毎日が、似たような毎日を繰り返すよりも面白い。”と答える。

令和6年度に磐田南高校での11年目を過ごした後も、希望すれば、4年間は別の学校で再任用として教職に残ることはでき、これまでと同じフルタイムか、半分働くハーフタイムかのどちらかで働くことができる。ただ、私自身は教職にしがみついていたとは全く思っていない。この仕事が嫌いなわけでも、家計に余裕があるわけでもない。理由の一つは「磐田南高校定時制以上に面白いと思える学校で働ける可能性は低いだろう」と予想できることだが、それ以上に大きな理由がある。

「やりたいことがたくさんありすぎて、その中には体力を使うことも多くあり、5年後ではできなくなってしまっていることもありそうだ」と予想できるからだ。1日24時間・1週間168時間のうち、睡眠・食事・家事などに必要な時間を1日10時間と考えた場合、残る時間は1週間に98時間となる。通勤時間を含めて1日に10時間を使うとすれば週に5日で50時間となり、自由に使える時間は約半分となる。そしてその間に身体は衰え、死への時間は近づいてくる。

まさしく「Time is money」だと感じる。「働いてる場合じゃないな！」などとも思ってしまう。

来年度は、磐田南高校での最後の1年を楽しみながら、その先の自分のやりたいことを整理して考え、やりたい気持ちの大きさ、順番などを整理し、総合的に考えながら、具体的な計画にしていきたいと考えている。目の前のやらなければならない事を確実にこなしながら、1年後の目標、3年以内に達成したいこと、死ぬまでにやっておきたいことを明確にとらえながら、それと同時に、自分の日常から切り離して捨ててしまいたいもの、ずっと大切にしておきたいものなども考えながら、一日一日を楽しく充実した毎日にするのができたらいいなあ・・・などと思っている。

さて、話題を変えて、定時制だよりを書くたびに、映画に関する話を書いてきたので今回も少しだけ触れようと思う。原稿を書いている今日は3月13日で、まだ学校行事の映画鑑賞会は終わっていない。今回は生徒のアンケートから作品を選出したが、小数のリクエストの中にも、“こんな作品を見ているんだ・・・いいね。他の人にも勧めたいな。”なんて感じる作品もたくさんあった。たとえば

『テラビシアにかけける橋』（2007/アメリカ）・・・児童文学の映画化作品で、貧しい家庭に育つ小学5年生の少年ジェスが主人公。学校でいじめにあって、孤独な日々を過ごしている。ある日、隣の家に引っ越してき転校生の少女レスリーと出会う。自由奔放な彼女とは、生活環境も対照的だったが、次第に仲良くなっていく・・・思春期入口の少年少女の表情やしぐさがとてもキラキラしている映画だと思います。想像し、心の目を開き、行動してみる・・・二人が一緒に成長していく姿をが、大人の私が観ても子供時代の感覚を思い出させてくれる素敵な作品です。

『時をかける少女』（2006/日本・アニメ）・・・何度も映画化、TVドラマ化されて、タイトルを知らない人はいないのではないのでしょうか？原作は筒井康隆さんで、最初の映画化は1983年でした。原田知世さんが主演で主題歌も彼女が歌っていました。（作詞作曲は松任谷由実）2010年には仲里依紗さんの主演でリメイクされています。それにしても日本のアニメは素晴らしいですね。監督は細田守さんですが、彼の監督作品では、『バケモノの子』（2015）／『おおかみこどもの雨と雪』（2012）／『サマーウォーズ』（2009）にリクエストしてくれた生徒もいました。今回はアニメ作品で『すずめの戸締まり』と『かがみの孤城』へのリクエストが多かったことから、選ばれませんでしたけどどれもいい作品だなと思います。他にも日本のアニメ作品へのリクエストは多く、ジブリ系列では『耳をすませば』（1995）／『猫の恩返し』（2002）／『火垂るの墓』（1988）／『崖の上のポニョ』（2008）／『もののけ姫』（1997）／『となりのトトロ』（1988）がありました。古い作品でも良い作品と思ってリクエストしてくれることがうれしかったです。その他にも『すずめの戸締まり』の新海誠さんの『君の名は。』と『天気の子』、京アニの『聲の形』（2016）などなど、アニメ作品のリクエスト作品数は23作品もありました。

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』（2023/日本）・・・公開が昨年12月でしたので、まだDVDなどは発売前かと思いますが、しっかりと観たい理由が書かれていてびっくりしました。汐見夏衛さんのベストセラー小説の映画化です。太平洋戦争末期にタイムスリップしてしまった現代の女子高生と特攻隊員の切ないラブストーリーで、レンタルが開始されたら私も観たい作品です。戦争と関連する作品では『ラーゲリより愛を込めて』（2022）をリクエストした人もいました。こちらは、第二次世界大戦終了後にシベリアに

抑留された山本幡男という人実話をベースとした映画です。(『収容所(ラーゲリ)から来た遺書』辺見じゅん著)

珍しい作品では『ムカデ人間』(2009/オランダ・イギリス)にリクエストした人もいました。“へえー、こんなん知ってるんだ・・・”って思いました。興味を持った人はぜひ検索してみてください。

リクエストに記してくれた作品を全部紹介することは出来ませんでした。たくさん生徒が自分の感性で観たい・魅せたい映画を紹介してくれたことに感謝します。

3月11日にはアカデミー賞授賞式でした。監督賞のプレゼンターを務めたS・スピルバーグ監督はオスカー監督を紹介する冒頭でこんな言葉を発しました。「最高の映画は単なる娯楽ではありません。我々の心を開き我々自身を示してくれる。そして我々の過去と未来を照らしてくれるのです。」

映画も本も同じで、いろんなジャンルがあり、数えきれないほどの作品がありますが、読んではいけない本、観てはいけない映画なんてないと思います。むしろ読んでみる、観てみることでその世界にほんのちょっと触れて感じてみる・・・そんな経験こそ大切じゃないかな?って感じます。

森羅万象に多情多根たれ!

「日本語」を選びとるとのこと—水村美苗『私小説—from left to right』 3年部 杉山雅梨華

私たちは日本(語)の小説を、右から左に読み進める。背表紙は右にあり、縦に文字が並ぶ。水村美苗の『私小説—from left to right』(新潮社、1995)は、副題のとおり、左から右へ、「日本語」に「英語」が入り混じった文章が横書きされている。物語は、作者と重なる主人公の「美苗」が12歳で家族と渡米し、その後の20年間をアメリカで生活することになった人生を回想するところから始まる。「私小説」という日本の伝統的なジャンル—作者自身の生活体験を素材として作者の内面描写を主とする—を題で表明しながら、異国での自己形成の過程が異言語混淆文で語られる本書は、「本邦初のバイリンガル小説」、「ハイブリッドな形式の小説」などと喧伝された。

アメリカへ行き、様々なまなざしを向けられた「美苗」を縛りつけたのは、「日本」への思いだった。「私は自分の居るべきではない場に自分が居り、自分の居るべき場に自分がいない」と感じていた、「私にとっての日本が、ひたむきな望郷の念の中で化物のように膨れ上がっていった」少女時代。「美苗」は「High schoolから戻るなり教科書を投げ出し、キッチンからCokeを取ってくると、帰りにdrugstoreで買ったCracker Jackの箱をびりびりと破りながらソファの端に身体をうずめて本を開く」、「英語」から逃れるために。「日本人」であることの確かさを、「日本近代文学全集」に求めたのである。

水村は、後年『私小説』の自己解説で次のように書いている。

By juxtaposing the two languages, what I hoped to convey above all was the irreducible materiality of the Japanese language. I hoped to make the readers truly see that the Japanese is a language that is different from the English, different from any Western language, and furthermore, different from any other language in the world.

“the irreducible materiality of the Japanese language”とは、「日本語の還元できない物質性」あるいは「他の言語への翻訳不可能性」とも言うべきものだろう。『私小説』が習得した「英語」のみで書かれることはない。家族と共有する生活の現実を切り取るのは母語である「日本語」、そして成長期の記憶を切り出し意味づけていくのは「日本近代文学」の「日本語」である。それは、「英語」や他の言語に置き換えることのできない存在感で、「美苗」の世界を占めている。「アメリカ社会」「英語」「日本語」「日本文学」「日本社会」などのalienとnative、outsiderとinsiderの間を行き来する、その溝が、解消されない違和感が、ひずみと痛みが、言葉となって表れる。片方の言語が、「美苗」の生きる世界を翻訳によってまるごと飲み込んでしまうことはできない。

「美苗」の言語に関わる記憶のなかで、中学校のEnglish classを担当したMr. Keithのエピソードがある。

Mr.Keithは古典を愛しつつ古典主義者ではなかった。もちろん西洋至上主義者でもなかった。それどころか多文化主義などというものに人々がまるで無縁に暮らしていたあの時代、異文化への興味と知識と尊敬とを生徒の心に植えつけようとした革新的な先生だったのである。ギリシャ神話を教えている時は他のさまざまな文明神話についてレポートを提出させ、生きる異文化がクラスに居るのを利用して私に日本語の詩を朗読させ、haiku というものまで授業で教え、おまけに学生たちに宿題で作らせたりもした。

そんな Mr.Keith だから私に言ったのである。

Don't forget your Japanese.

「美苗」がアメリカで出会ったのは、「英語」だけではなかった。「日本」で学び働き、「日本食」を食べ、「日本語」を話し、「日本人」であるということ意識すらしなかった「私」と、「私の日本語」を同時に受け止めていく。それから、読者もまた「美苗」を通して一旦「日本語」というシステムの外へと自らを置かなくてはならない。「日本人」による「日本」の小説が、「日本語」で書かれていることが決して自明なことではない、ということをつきつけられる。それはいつだって選りよった言葉、あるいは選りよるほかなかった言葉である。Mr.Keith が言ったように、「美苗」は「日本語」を忘れなかった。私たちはどんな社会にいても選ぶことができるのだ、話す言葉を、書く言葉を、そして読む言葉を。—Don't forget your.

#### 参考文献

Minae Mizumura, "Authoring Shishosetsu from left to right" 91st Meridian 3:2 (Winter 2004)

URL: <https://iwp.uiowa.edu/91st/vol3-num2/authoring-shishosetsu-from-left-to-right>

小森陽一『〈ゆらぎ〉の日本文学』日本放送出版協会、1998

河野至恩「日本語を選び取る」ことの可能性—複言語主義から読む水村美苗「私小説 from left to right」  
『日本近代文学』2020年5月号

#### 4年部 後藤 昌則

僕がこの磐南定時制に赴任して二年になります。その二年前の四月七日、僕の大親友だったR君が、命を落としてしまいました。彼とは高校二年の時に、隣の席になったことがきっかけで親しくなりました。それから一緒に食べ放題や、映画に行ったりして、高校時代は彼がいてくれたおかげで、充実していました。高校を卒業してからも、東京の下宿によく遊びに来たり、失恋した時には、彼の前で大泣きしたりして、僕の青春時代にはいつも彼が傍らにいてくれました。奥さんと結婚する時も、よく相談に乗ってくれたり、今、乗っている車のナンバープレートも「510」で、ゴトウと選んでくれたのも彼でした。そんな彼が、磐南定に赴任して一週間しか経っていない時に亡くなってしまった。突然の死に呆然としてしまい、今でも信じられず心は空白のままです。けれども彼がいなくなって二年が経過してしまいました。時々、自分が辛くなった時、彼ならどうそれを乗り越えただろうと考える時があります。

高校時代に出会った友人は、一生ものの存在だと思います。僕にとってR君は永遠の存在になってしまいました。が、そこで出会った人々は一生の宝物になるはずで。だから、あなたの近くにいる友人を大切にしてください。僕も、彼と一緒に過ごしてきた四十数年という日々、そして彼が生きていたらどうしただろうという暗中模索の中で、六十二歳の生を営んでいます。そして出会いを大切にしていきます。


#### 4 来年度の当初の予定

月	日	曜	予定	月	日	曜	予定
4	8	月	新任式・始業式	4	15	月	面接週間開始
	9	火	入学式		18	木	尿検査・心電図検査
	10	水	新入生歓迎会		23	火	歯科検診
	11	木	新体測定 1年生TKバッテリー		30	火	基礎力テスト

#### 5 部活動活動報告（全国大会等の結果）

<p>バスケットボール部</p> <p>東海高等学校定時制通信制バスケットボール大会 9月10日(日)</p> <p>対 愛知県立豊橋工科高校 負け</p>
<p>バドミントン部</p> <p>全国高等学校定時制通信制バドミントン大会 8月15日(火)-18日(金)</p> <p>HRN04216 渡辺ブルーノ</p> <p>個人戦と団体戦(静岡選抜)に出場</p> <p>個人戦 2回戦 対中部農林(沖縄) 2-0      3回戦 対明德館(秋田) 2-0</p> <p>          4回戦 対一橋(東京) 0-2      ベスト16</p> <p>団体戦 1回戦 対高知 3-0      2回戦 対神奈川A 0-3</p>
<p>柔道部</p> <p>第54回全国高等学校定時制通信制柔道大会 8月6日(日)</p> <p>男子団体戦(選抜 HRN01114 ヒガ ツヨシ) 第3位</p> <p>女子団体戦(選抜 HRN03210 ゴメス ガブリエラ)</p>
<p>陸上部</p> <p>全国高等学校定時制通信制陸上競技大会 8月10日(木)~13日(日)</p> <p>○女子の部</p> <p>100m 10位 HRN01218 ヨコテ アケミ      200m 9位 HRN01218 ヨコテ アケミ</p>

#### 7 生活体験発表大会

西部定時制通信制 生徒生活体験発表大会 9月8日(金)	第71回 生活体験発表大会 県大会 10月1日(日)
	



第71回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 11月19日(日)



8 活動記録

<p>生徒総会 10月2日(月)</p>	<p>平和学習 10月4日(水)</p>	<p>磐田市長と磐田の未来を語る会 11月1日(水)</p>
<p>11月15日(水)～17日(金) 修学旅行(関西方面)</p>		
<p>防災(火災)訓練 12月4日(月)</p>	<p>シネマデイ 12月18日(月)</p>	<p>日伯交流協会表彰式 1月9日(火)</p>

令和5年度定時制生徒合同文化祭1月12日(金)



財政教育プログラム1月17日(水)

卒業記念講話1月24日(水)

